

工学院大学孔子学院

CONFUCIUS INSTITUTE AT KOGAKUIN UNIVERSITY

学院長: 西園寺一晃 副学院長: 郭莉萍 / 榎本淳一

〒163-8677 東京都新宿区西新宿一丁目24番2号

TEL.03-3340-1457 / FAX.03.3342-3150

E-mail cik@kogakuin.ac.jp

URL <http://www.kogakuin.ac.jp/cik>



工学院大学孔子学院ニュース

第 32 号

発行日 2011年 12月 20日

中国まるごと体験 !!

四季のかおり「冬ざれに雄峰富士の出番」

お天気情報にも雪ダルマが目立ち始め、2011年の日めくりカレンダーも残すところあとわずか、皆様にとってこの1年はどんな年でしたか。

酉の市が終わったと思ったら街路樹や植え込みの電飾が街を華やかに彩り始め、夕暮れどきが待ち遠しくなりました。しばし寒さを忘れて可憐な輝きのパワーで疲れた心を癒してみませんか。暮れの慌ただしさは新年のスタートのための助走期間です。ちょっと一呼吸してみてもいいですか。

これからの季節、かじかんだ手に息を吹きかけると、白いものがゆらゆらと空中を舞っているのを見かけることがあります。そう、都会ではお目にかかれなくなった雪蛭(ゆきほたる)、雪婆(ゆきばんば)

とも呼ばれる小さな綿虫です。風のない凜とした日に現れ、越冬するため新たなねぐらを探しています。初雪の日がごく近いことを告げて、いつのまにか姿を消していきます。冬ざれの木下で足を休めて富士山を眺めながら綿虫を探すのも風流ですね。

厳しい冬はこれからが本番です。一瞬にして尊い命を奪った東日本大震災、原発事故、台風による豪雨被害など、自然災害の恐ろしさを見せつけられた1年を一朝一夕で拭いさることはできませんが、皆様にとって、穏やかな年末年始でありますようお願い申し上げます。

“四季のかおり”も本号をもって筆休め。卯年の一年間ありがとうございました。



荒川から、澄み切った冬空にそびえ立つ雄峰富士山

2011年度の孔子学院協議会の会議が、別府で開催される

2011年度日本孔子学院協議会在別府召开



2011年11月19日 於 立命館アジア太平洋大学

2011年11月19日日本15所孔子学院和孔子课堂代表齐聚美丽的别府，出席2011年度日本孔子学院协议会。大会由立命馆亚洲太平洋大学孔子学院主办，为期两天。原日本国内阁总理大臣村山富市及中国国家汉办/孔子学院总部、中国驻日本大使馆、中国驻大阪和福冈总领事馆的有关官员出席了大会。

大会讨论和通过了2010年度决算和审查报告及2011年度预算。各孔子学院及课堂分别介绍了一年来自举办的有影响的活动和2012年的活动计划。对汉办提出的孔子学院发展规划及如何吸引更多的汉语爱好者参加孔子学院的汉语讲座等议题进行了热烈的讨论和交流。

明年是中日邦交正常化 40 周年，各孔子学院都在积极准备各种纪念活动，为进一步推动中日两国的友好发展，增进两国民间的广泛而深入的交流做出应用的贡献。

日本にある 15 の孔子学院・孔子学堂の代表が集う 2011 年度日本孔子学院協議会の会議（立命館アジア太平洋大学孔子学院主催）が、11 月 19 日から 2 日間の日程で、大分県別府市で開かれました。

会議には、村山富市・元首相をはじめ、中国国家漢弁（孔子学院本部＝北京）、中国の駐日大使館、大阪総領事館、福岡総領事館の関係者も出席しました。

会議では、2010 年度の決算報告と 2011 年度の予算案が審議・承認され、15 の孔子学院・孔子学堂から、1 年間の活動報告と 2012 年度の活動計画が紹介されました。また、孔子学院本部（北京）が作成した孔子学院の発展計画や、孔子学院中国語講座の PR などについて、真剣に討議し、意見を交わしました。

来年は、中日国交正常化 40 周年という記念すべき年に当たります。日本の各孔子学院はさまざまな記念イベントを計画していますが、工学院大学の孔子学院も、中日両国の友好と両国民間の交流に力を添えたいと思います。（郭莉萍）

「宇宙生命学」に関する特別講演会が開催

孔子学院举办空间生命科学特别讲座

2011 年 12 月 3 日工学院大学孔子学院邀请国际宇航科学院院士、北京航空航天大学宇航学院和生物与医学工程学院教授庄逢源先生做了一场“空间生命科学解明生命之谜—日本人为何长寿？”的精彩演讲。

庄逢源教授从 20 世纪下半叶的两大成就—人类进入空间和人的平均寿命大大增加讲起，详细地介绍了空间环境对宇航员身体健康的重大影响。宇航员从地球上的重力环境进入空间的微重力环境，体内会发生心血管系统失调、骨质疏松、肌肉萎缩、前庭神经系统失调、免疫功能下降等类似于衰老的生理变化。如何采取对抗措施解决空间环境对宇航员身体健康的不利影响是空间生命科学研究的重要内容。由于空间生命科学的发展，也提出了重力在生命起源，生物进化，生物个体的发育、生长、衰老有什么重要作用的研究课题。这些问题的研究有助于解决地球上延缓人类的衰老和提高老人的生活质量。

日本人的平均寿命世界第一，特别是女性平均寿命高达 86 岁。庄教授分析了日本人“榻榻米”的生活方式，指出有效利用重力的生活方式是否是日本人长寿秘密之一。他提出的充分利用大自然赋予的一切，驾驭重力，延缓衰老，引起了全场听众的极大兴趣。

两个小时的讲演结束后，孔子学院新任理事后藤治先生做了总结发言。

航空航天系列科技讲座是工学院大学孔子学院独具的显著特色，今后还将继续举办。

「宇宙生命学が解明する生命の謎—日本人はなぜ長寿か？」をテーマにした孔子学院の特別講演会が、12 月 3 日、工学院大学新宿キャンパスで開催されました。講師は、中国から来日した国際宇宙航行アカデミー（IAA）会員で、北京航空航天大学宇航学院と生物医学工程学院の庄逢源（しょう・ほうげん）教授です。

講演会は、20 世紀後半の二つの大きな成果—人類が宇宙空間に突入すると、人間の平均寿命が延びるという話題から始まり、宇宙空間が宇宙飛行士の健康に及ぼす大きな影響について詳しく説明しました。

庄教授によると、宇宙飛行士が地球の重力状態から宇宙の微重力の状態に入ると、心臓血管の変化、骨粗鬆、筋肉萎縮の現象がおき、前庭神経の乱れや免疫機能の低下など、老衰に似たような生理変化が見られます。宇宙空間が宇宙飛行士の健康に及ぼす良くない影響を解決し、宇宙飛行士の健康を守ることは、宇宙生命学の重要な研究テーマです。また、生命の起源、生物の進化、生物の発育・成長、老衰と重力の関係も、これからの研究課題の 1 つです。宇宙生命学の研究は、人間の寿命の変化やお年寄りの健康管理にも大変役立つでしょう。



庄逢源 教授

日本人の平均寿命は世界1位で、平均寿命86才という日本人女性の長寿は、とりわけ有名です。庄教授は、日本人の長寿は、重力を有効に利用した畳による生活習慣と関係するかもしれないと指摘しました。庄教授の、自然環境を最大限に活かし、重力を利用して、寿命を延ばすという話は、受講者の関心を誘いました。

講演会の最後で、工学院大学孔子学院の新任理事の後藤治教授が、お礼と感謝の言葉を述べました。

宇宙・航空に関するシリーズ講演は、工学院大学孔子学院の特色のあるイベントとして、今後も続けていきます。
(郭莉萍)

孔子学院サロン 11月のテーマは「中国の世界遺産—陝西省・安徽省・江蘇省」

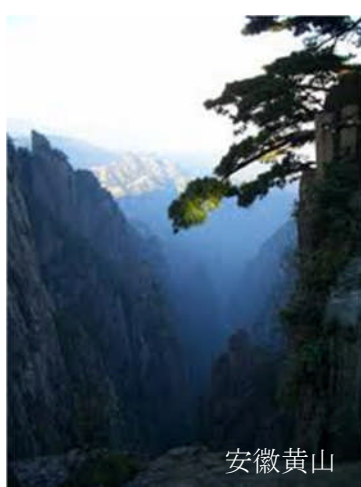
「中国の世界遺産—陝西省・安徽省・江蘇省」をテーマにした工学院大学孔子学院サロン（孔子学院沙龙 kǒng zǐ xué yuàn shā lóng）が、11月19日（土）午後、孔子学院（エステック情報ビル地下1階）で開かれ、雨の中、6の方が参加してくださいました。

今回のサロンは、中国の世界遺産シリーズの3回目で、陝西省の文化遺産「秦始皇帝陵及び兵馬俑坑」、安徽省の文化自然複合遺産「黄山」、文化遺産「安徽古集落—西遞と宏村」、江蘇省の文化遺産「蘇州古典庭園」の4か所の世界遺産を紹介しました。



西安兵馬俑

「秦始皇帝陵及び兵馬俑坑」は、西安から35キロ離れた驪山（りざん）というところにあり、山全体が秦始皇帝陵になっていて、その副葬として兵馬俑坑があります。発掘された3つの俑坑には戦車が100余台、陶馬が600体、兵士が8000体以上という大規模な遺産群です。「黄山」は、奇松、怪石、雲海、温泉の「黄山四絶」で有名で、古くから仙人が住む世界として中国人に憧れ、



安徽黄山

中国水墨画の原型としても言われています。「安徽古集落—西遞と宏村」は、安徽省の南部にあり、明清時代のレンガ造りや木造の歴史建築が数多く残り、文化と芸術価値も非常に高いと近年来、中国国内で人気の観光地にもなっています。「蘇州古典庭園」は、蘇州にある私家園林の総称で、皇家園林と対照的に、小規模の中で石や池、花や回廊を配置した素朴な美しさの特徴とします。有名なのは、「滄浪亭」、「獅子林」、「拙政園」、「留園」、宋、元、明、清の四王朝のそれぞれの建築を代表し、「蘇州四大名園」と言われています。

サロンでは、中国の旅行体験や、中国と日本の共通の文化現象も受講生からたくさんの発言がありました。次回は、1月21日（土）14時から。テーマは「中国の世界遺産—福建省・雲南省・チベット自治区」です。多くの方の参加をお待ちしています。
(寧玉維)

中国の料理と酒⑭

今回の料理は「閩菜」（福建料理）です。細かく分ければ「閩北菜」、「閩南菜」、「閩西菜」に分類されます。福建省は台湾海峡を挟んで台湾と向かい合っています。長い入り組んだ海岸線を持ち、背後は山間部になっていて平地は少なく、地形は複雑です。漁業が盛んで、平地では農業、山間部ではお茶の栽培が行われています。食材は海産物、筍、茸類、川魚、川エビなど豊富多彩です。調味料にも特色があり、紅麴、酒粕、魚醤、黒酢などを多用します。味は比較的淡白なものが多く、塩分控えめですが、砂糖を使うので甘い感じの料理が多いのです。福建料理はスープにこだわります。「百湯百味」と言われるようにスープの数は多く、宴会では数種類が出ます。省都の福州周辺の料理を幾つか紹介します。

「仏跳牆」肉、魚、茸など山海の干物を陶製のつぼに入れて、長時間（3日）蒸し上げた濃厚なスープ

「醉排骨」酢豚に似た豚スペアリブの甘味料理

「紅糟羊」山羊の紅麴煮

「爛麵」海鮮、豚肉、野菜入りの白濁スープ麺で、「長崎ちゃんぽん」のルーツとも言われています

「太平燕」豚肉を練りこんだ皮のワンタンとアヒルの卵スープ

「包心魚丸」肉団子を包み込んだ白色のつみれ



「仏跳牆」



出典:Wikipedia 「海鮮爛麵」

福建の酒と言えば「福建老酒」です。古田県谷口鎮産の糯米を原料にし、紅曲カビを糖化発酵剤として醸造された「黄酒」です。この酒が赤いのは、紅曲カビは麴カビ菌種で、成熟すると深紅になるからです。コクと旨み、口当たりの良さは抜群です。

福建と言えば烏龍茶です。中国茶は緑茶、白茶、黄茶、黒茶、青茶、紅茶、花茶の7種に分類されますが、ウーロン茶は「青茶」に属します。ウーロン茶のうち最も有名なのは「武夷岩茶」で、「大紅袍」、「白鷄冠」、「水金亀」、「鉄羅漢」を4大岩茶と称しています。その中でも「大紅袍」が最高品質です。「鉄観音」は安溪県で産するウーロン茶です。

中国茶の飲み方ですが、一般的には大きめの蓋つき「茶杯」に茶葉を入れて、熱湯を直接注ぎます。しかし正式な飲み方は急須を使います。先ず急須を温めてから、適量の茶葉を入れ、一煎はすぐ湯を捨てます。二煎は「聞香杯」で香りを楽しみ、三煎から五煎くらいまで味を楽しむのです。

(西園寺 一晃)

新語・流行語 ②③ 「幸福指数(xìng fú zhǐ shù)」

11月半ばに来日したブータンのワンチュク国王の「国民総幸福」という言葉は、日本で大変話題になりました。「総幸福」の話は連日、テレビや新聞などで取り上げられ、つい最近でも、日本で一番幸せな県民ランキングの発表もありました。

「幸福」は、日本で大変ホットな話題ですが、実は、中国でも、「幸福指数」という言葉が今年、非常に注目されました。



この3月、北京で開かれた「两会」(全国人民代表大会と全国政治協商會議)で、「十二五」(第12次5カ年計画、2011年—2015年)が発表され、国民の「幸福指数」を高めることが重点項目に置かれていました。この方針の下で、早速、各地方政府では、「幸福」という言葉を非常に重視するようになり、広東省は「幸福広東」をスローガンにかかげ、北京市も「人民の生活をより幸福に」との政策を打ち出しているようです。

「中国青年報」が2,633人を対象に行った調査によると、「現在の幸福感」について、38.7%が「良くも悪くもない」、30.2%が「幸せ」と回答し、一方、19.5%は「あまり幸せではない」、11.6%の人は「非常に不幸」と答えました。「幸福」の条件として、「健康」を一番に挙げた人が75.3%、「経済収入」が71.5%、「尊重されている割合」が68.1%という順となり、以下、「医療保障」(59.8%)、「住宅」(59.5%)、「環境の質」(57.5%)、「価値実現水準」(55.8%)、「恋愛婚姻状況」(45.8%)、「教育状況」(39.4%)と続きました。いずれも、国民の生活と密接に関連している内容でした。

また、中国国営新華社通信による中国での「幸福を感じる都市ランキング」では、杭州市(浙江省)が5年連続のトップで、成都市(四川省)、寧波市(浙江省)、西安市(陝西省)、昆明市(雲南省)と続きました。

中国人の「幸福感」への関心が高まる中、「幸福」に関する書籍もたくさん出ています。今年5月、中国で大変人気のある日本人作家・渡辺淳一氏の新書「幸せ上手」の中国語版が出版されました。渡辺氏は著書の中で、「幸せとは感謝することであり、謙虚に生き、考え方の視点を変えると幸せだと感じやすくなる」と書いています。

2011年も、残りわずかですが、この年末、皆さんも「自分にとっての幸福とは何か？」をもう一度考えてみてはいかがでしょうか。皆さんにとって、来年こそ、「幸福を感じる」一年になりますよう、お祈りしています。よいお年を！！

(寧玉維)

講師からの一言



厳肅講師

大家好！北京から参りました厳肅（ゲン・シュク）です。親子中国語教室を担当し、中国・アジア研究センターの客員研究員でもあります。

「一言書いて下さい」といわれた時、書きたいことが余りにも多く、一体どこから書いて良いものやら、とても「一言」では言い尽くせない気持ちです・・・

来日以来 10 数年の間、色々なことを経験し、数々の困難を乗り越え（不治といわれた病で生死の境をさまようことさえありました）、でも、変化の多い生活の中でも変わらないことの1つは、日中間の仕事と交流による相互了解、理解を促進させていく気持ちです。

この気持ちは、ずっと初心のままです。孔子学院との出会いは「相見恨晩」（四字熟語＝相性の良い恋人にもっと早く出会えたら良かったとの気持ちを表す諺）そのものでした。ずっと求めていた理想的な交流の場がようやく現れた、きっとここで自分の能力や経験が十分発揮できる、日中間の交流や仕事をする場所としては最適と思い、終（つい）の棲家として人生の後半はここで送ろう、との直感もありました。

親子一緒に中国語教室は「日本初」といわれ、とても光栄に思っております。3才から10才までの子どもたちと保護者への授業では、いつも授業に夢中になり、時間が足りず、オーバーしています。教科書以外にも中国の礼儀や習慣、行事、児童歌舞、食文化、遊び方なども順次教え、立体的な内容で、「徳、智、体」の全方位的なバイリンガルの育成をめざしています。

スタートしたばかりの「新生児」の様な親子教室ですが、諸先生方の力をお借りしたいと思っております。中国語や中国のことに興味のある方、親子でも、お爺ちゃんお婆ちゃんと孫、兄弟でも親戚のペアでもかまいません。どうかご来校ください。

毎回の授業は、天真爛漫な可愛い子どもたちと一緒にですので、却って私の方が楽しませてもらっています。孔子学院を立ち上げた方々や事務局の皆様感謝の気持ちでいっぱいです。同時に、責任の重さも感じています。戦争を知らない次世代の子どもたちに、「日中友好」をどう引き継いでいくかは、私たちの大きな課題だと思っております。

孔子学院を通じて、日中友好と世界平和をめざし、皆様と一緒に歩んでゆきたいと思っております。今後ともご指導、ご鞭撻のほど、よろしく願いいたします。（厳肅）

中国の諺シリーズ⑱ 「一元复始」と「一帆风顺」

寒さが募っています。一日も早く暖かくなってほしいですね。

ところで、日本には「一陽来復」という諺があります。中国の『易経』で、冬が去って、春がやって来る。新しい年が来ることをいいますが、年末・年始の節目に当たり、悪いことが重なったあと、やっといいことが巡ってくることも意味します。中国にも「一元复始(yīyuánfùshǐ)」という諺があります。「一元复始, 万象更新(yīyuánfùshǐ, wànxiànggēngxīn)」という繋がりで使いますが、深い意味としては、新しい年の始まりに「人生のすべて」を改め、今までの良くないことが転じて良い方に向かってほしいとの願いが込められています。日本と中国は、一衣帯水の関係にあり、考え方もお互いに影響し合っています。

よく似た諺の一つに、日本には「順風満帆」があります。すべてに恵まれて、すべてのことがうまくいっていることを意味します。人生バラ色の境地にいる。人生の歯車が軽やかに回り、ことがとんとん拍子に進んでいるとのたとえです。中国では「一帆风顺(yīfānfēngshùn)」が、それに当たります。船の帆が風をいっぱいにはらんで、スピードをあげて早く突き進むとの意味です。この反対の諺が「一波三折(yībōsānzhé)」「暴风骤雨(bàofēngzhòuyǔ)」「凶涛恶浪(xiōngtāoèlàng)」です。人生すべてが、逆境、不遇、多難のたとえです。長い一生の中では、良いことと悪いことが、交差して起きますから、一時、耐え忍んで生きていくと、きっと「一元复始」の人生になるでしょう。



(鳥之玲)

留学生便り ②

我来中国留学，快4个月了。在北京航空航天大学的生活非常舒适。中国的经济发展越来越快，所以买东西的时候，出门的时候都非常方便。由于在这个大学学汉语的日本人不太多，因此特别能锻炼说汉语。我刚来中国的时候，一点儿也不会说汉语，可是班里的老师和同学们都很好，我学习的环境很好，所以现在我的汉语进步很大。会把自己的感觉告诉大家，而且所有人说的内容也听得懂了。

留学期间，北京航空航天大学组织我们去看长城，青龙峡，杂技什么的。价钱是1次1人20元钱。那么便宜的价钱一般没有，所以我非常感谢这次留学机会。不过我没有去长城。听说有中国人在长城上照婚礼照片的。在青龙峡有蹦极，很多外国人都挑战了。1次180元钱，比较贵。我骑了马，别提多开心了。但是，要说印象最深的，还是杂技。他们表演的杂技非常厉害，一辆自行车上能骑12位女士。杂技是很有意思的中国的传统技艺，所以要是你来中国的话，请一定亲眼去看看杂技。



中国热情的人比日本报道的要多很多。他们也好好排队。会尽力回答不会说汉语的我提出的问题。当然我们也要小心，不过我越来越喜欢中国了。不久以后我能在中国过春节，非常高兴。我要更加好好学汉语，去看、去感受丰富多彩的中国。

<留学生活について>

中国に留学してからもうすぐ4ヶ月経ちます。北京航空航天大学での生活はとても快適です。中国経済がどんどん発展しているので、買い物やお出かけするときもとても便利です。また、北京航空航天大学には日本人が少ないので、中国語の会話の特訓にもなります。

私自身、中国に来たばかりの頃はほとんど中国語を話せなかったのですが、素敵な先生とクラスメイトにも恵まれ、今では、ある程度自分の意思を相手に伝えて、相手の話している内容も理解できるぐらいまで成長できました。

留学している期間、大学主催で万里の長城、青龍峡、雑技団など見に行くことができます。価格は1回1人20元です。こんなに安く観光することはできないので、留学できたことにとても感謝しています。万里の長城には行っていませんが、話しを聞くと、そこで結婚式の写真を撮っている中国人も居たそうです。青龍峡には、バンジージャンプなどもあり、多くの外国人が挑戦していました。1回180元で少し高めです。私はそこで馬に乗りとても楽しかったです。でも、一番印象に残っているのは、やはり雑技団です。一輪の自転車に12人の女性が乗るぐらい、彼らの雑技はすごかったです。これは中国のとても面白い伝統雑技なので、もし中国に来ることがあるのであれば、是非ご自身の目で確認していただきたいです。(写真撮影は禁止されているので見せることができないのが悔しいです。)

中国人は日本で報道されている以上に優しい人が沢山います。きちんと列にも並びます。中国語のできない私の質問に一生懸命答えてくれます。もちろん用心は必要ですが、私はますます中国が好きになってきました。これから中国の正月を迎えることができるのでとても楽しみにしています。もっともっと中国語を勉強して、いろいろな中国を見て感じて触れて行きたいと思います。

(孔子学院奨学金生 長谷川綾子)

ご出産おめでとうございます



中国語講座担当の安明姫講師が10月に長男を出産されました。
←鄭 皓文 (テイ コウブン) くん (2011年10月28日生まれ)



中国語講座担当の秦衍講師が11月に長女を出産されました。
←田治 友梨華 (タジ ユリカ) ちゃん
(2011年11月24日生まれ)

お二人のお子さんが、すくすくと元気に成長されることをお祈りいたします。

孔子学院 秋の芸術祭を開催しました



—作品展は充実—

2011年11月25日から12月3日まで、工学院大学インフォメーションサテライトのラウンジで、水墨画、中国書道、篆刻の受講生とその講師による作品展を開催しました。

受講生の皆さんが、この作品展のために準備してきただけあって、会場には力作ばかりが揃いました。

「合同展示は他の講座の作品もあわせて観る事ができるので、受講者どうしの良い刺激になった」という声も聞かれました。今回ごらんにな

れなかった方は、来年ぜひ会場に足を運んでみてください。

—本邦初? 「二胡とチェンバロの饗宴」—



孔子学院では11月25日の芸術祭のオープニングにあわせて、おそらく日本で初めてとなる、中国楽器の二胡と古楽器チェンバロのジョイントコンサートを開催しました。

新宿キャンパス8階のファカルティクラブを訪れた22名の皆さんは、晩秋のひととき2つの楽器の饗宴を楽しみました。ヨーロッパのバロック時代の音楽、ソグド人の舞踊曲、日本の歌曲など盛りだくさんのプログラムでした。各楽器の独奏とともに楽器の解説もあり、休憩時には、あまり見る機会の少ないチェンバロに皆さん興味津々の様子でした。二胡奏者の張艶さんとチェンバロ奏者の岡田龍之介さんの演奏は、楽しいトークと明るい雰囲気の中で90分のコンサートはあっという間に過ぎて行きました。来年も新たなコンサートを企画しています。どうぞご期待ください。



入賞者発表「私が見た中国」写真コンテスト

第3回「私が見た中国」写真コンテストに、今年は53点の応募作品が寄せられました。来場者が気に入った作品(ひとり3点まで)に投票して入賞作品が決まりますが、今年は2等賞と3等賞でそれぞれ4作品が同点となりました。審査委員会では優劣つけがたいということになり、以下の9作品が受賞となりました。

1等賞:「新時代の幕開け」川俣知夏子さん ▼2等賞:「杭州のからくり箱」大竹次郎さん、「鳥と中国—中国の風物詩」小川裕代さん、「中国国際航空CA926便東京→北京へ 機内での小さな国際交流」福山和泉さん、「天然プール」浦辺琴子さん、▼3等賞:「お姫様は六人」工藤武正さん、「桂林風景」秦衍さん、「羌族村の朝」寧玉維さん、「坊里村の母子」西沢昭裕さんです。入賞されたみなさま、おめでとうございます。

表彰式は12月17日(土)におこなわれ、入賞者には賞状と賞品が西園寺学院長から手渡されました。1~3等賞の作品は孔子学院のホームページに撮影者のエピソードを付けて掲載しています。今回惜しくも入賞を逃したかた、来年のリベンジをお待ちしています。(桜井潤子)



「新時代の幕開け」川俣知夏子さん

編集後記 この1年、大きな災害のせいで生活が一変した人はもちろん、多くの人々が今までとは違った価値観で物事をとらえるようになり、家族や仲間を大切に作る気運が高まりました。今年の漢字は「絆」でしたが、孔子学院を通してつながった「絆」もたくさんありました。この「絆」を来年も大切に、太くより強固なものに育てて行きたいと思えます。来る辰年も、孔子学院では様々な企画を準備しています。今後ともよろしく願い申し上げます。
(工学院大学孔子学院事務局 桜井潤子)

<2012年1月期開講文化講座 申込み受付中>

① 中国古典文学の世界「故事成語・ことわざで読む中国史」 平井 徹

1月13日・27日/2月10日・24日/3月9日

◆ 時間：金曜日・18:30～20:00 ◆ 回数：全5回（1回ごとの受講可能）

② 漢詩入門 黄 尉

1月14日・28日/2月25日/3月10日

◆ 時間：土曜日・14:40～16:10 ◆ 回数：全4回（1回ごとの受講可能）

①～②受講料：一般1回2,000円/学生1回500円/孔子学院友の会会員1回1,800円

③ 香 道 野口 香崇

(全5回) 1月11日・25日/2月8日・22日/3月7日

◆ 時間：水曜日・13:30～15:00 ◆ 受講料：一般10,000円 /学生2,500円(教材費は別途)

④ 篆 刻 張 建春

(全4回) 1月14日・28日/2月25日/3月10日

◆ 時間：土曜日・14:40～16:10 ◆ 受講料：一般8,000円 /学生2,000円(教材費は別途)

⑤ 中国書道 西中千恵子

(全5回) 1月11日・25日/2月8日・22日/3月7日

◆ 時間：水曜日・14:40～16:10 ◆ 受講料：一般10,000円 /学生2,500円(教材費は別途)

⑥ 二胡教室 沈 琳

(全10回) 1月11日・18日・25日/2月1日・8日・15日・22日・29日/3月7日・14日

◆ 時間：水曜日・18:30～20:00 ◆ 受講料：一般2,500円 /各回（一ヶ月分を月初めに一括支払い）

⑦ 水墨画 張 曉文 / 溝口 墨道

(全5回) 1月12日・26日/2月9日・23日/3月8日

◆ 時間：木曜日・14:40～16:40 ◆ 受講料：12,500円（教材費は別途）

⑧ 中国問題を読み解く (NPO法人東京都日中友好協会共同連続講座)

西園寺 一晃 2月15日(水)「転換期に立つ中国経済」・石 雲艶 3月7日(水)「中国における日本研究」

◆ 時間：14:30～16:00（1回ごとの受講可能）◆ 受講料：1回1,500円

<孔子学院 サロン2012年1～3月の予定>

世界遺産5「チベット自治区、雲南省、福建省」 1月21日(土) 14:00～15:00 講師：寧玉維

中国の世界遺産を紹介するシリーズもいよいよ最終回です。とっておきの内容を用意してお待ちしています。

春節を祝う 餃子パーティーを開催します! 2月4日(土) 16:30～18:30 講師：寧玉維

中国のお正月を、水餃子を味わいながらお祝いします。今年はどんなパーティーになるのか・・・参加してのお楽しみです。

中国古琴の紹介と鑑賞 3月17日(土) 14:00～15:00 ゲスト講師：楊鵬

古琴（七弦琴）は中国古来の弦楽器です。今から3000年ほど前の周の時代に誕生した古琴は、昔「琴」や「瑤琴」と呼ばれていました。古琴にまつわるお話と演奏をお楽しみいただけます。

※3回とも場所はエテック情報ビルB1のラウンジで、受講料 各500円（孔子学院友の会会員 各300円）です。

孔子学院友の会入会希望の方は、申込みの際にお申し出ください。

参加希望の方は工学院大学孔子学院へ電話、fax、E-mailでお申込みください。HPからもお申込み受付中です。

問い合わせ

 工学院大学孔子学院

〒163-8677 東京都新宿区西新宿一丁目24番2号

電話 03-3340-1457 FAX 03-3342-3150 E-mail cik@kogakuin.ac.jp

URL <http://www.kogakuin.ac.jp/cik>